

1 子どもたちの姿と学校の状況、地域の実態

子どもたちの姿（学習状況調査等の実態も踏まえて）

- 落ち着いた家庭環境に恵まれ、学区内に子どもの遊び場があり、生き生きとしている。
- 素直な子どもが多く、指導したことが浸透していきやすい。また、友達と相互に関わり合うこともできる。
- 「家庭学習」に、子どもたちは意欲的に取り組んでいる。また、「家庭学習ばっちり週間」を中心に、家庭と学校とで連携しながら学習に取り組むことができる環境が整っている。
- 配慮を要する子どもたちに対しても、それぞれに合った支援が考えられているため、皆が前向きに学習に取り組むことができている。
- 学んだことを活用して課題解決に当たる力や、自分たちで新しいものを創造していく力を、高めていく必要がある。

学校の状況、地域の実態

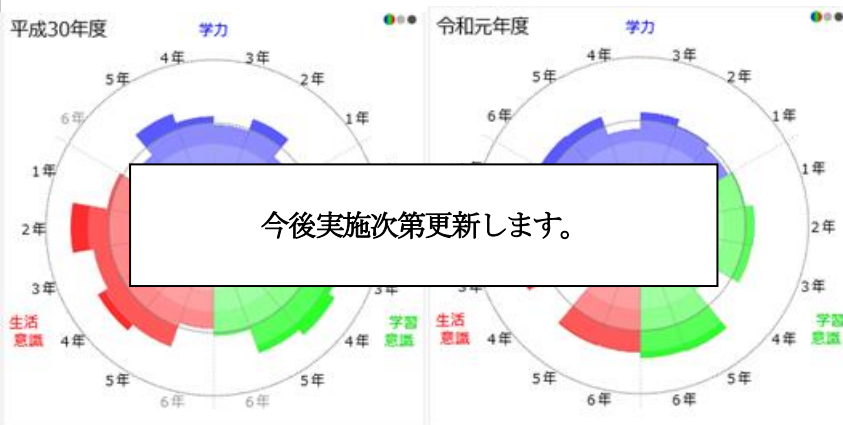
- 職員間の意見交換や交流は活発であり、向上心をもって協力して職務に当たっている。
- 授業研究にも熱心に取り組み、研究活動の充実のために研修を行っている。
- 6年間を通した学びの高まりや、学年間のつながりを意識した家庭学習を職員で共有し、学びの定着を図ることに力を入れている。
- 地域の中に子どもたちが安心して遊ぶ公園や、市体育協会登録団体である、総合型地域スポーツクラブがあり、多くの子どもたちが校内外で関わっている。
- 地域には豊かな経験や知識をもった方が多くおり、子どもたちを温かく見守ってくれる環境となっている。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

- 「子どもたちが、自分の育ちを実感できる学校」の実現に向かって、全職員で次の目標に取り組みます。
 - ・子どもたち一人ひとりのよさを理解し、心を通い合わせながら、安心して過ごせる学校生活づくり、居場所づくりを進めます。
 - ・子どもが意欲をもって学習活動に取り組み、学び方を身に付け、「できた」「わかった」という成就感を味わえる授業をします。
 - ・子ども同士のつながりを深める学級活動、異年齢集団活動、児童会活動を工夫して行い、よりよい人間関係を築きます。
 - ・中学校ブロックや家庭・地域・関係機関との連携を深め、社会の要請や信頼に応える教職員集団を目指します。
 - ・効率的な学校運営を実現するために、人材育成、組織運営の改善、業務改善、働き方改革を実行します。

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



令和2年度は、令和元年度に作成した、「中丸小学校が教育活動全体を通して育成を目指す資質・能力のイメージ図」を基に、日々の授業等を組み立てて学習活動に取り組んできた。

どの学年の児童も学習意欲が高く、課題に熱心に取り組む様子が見られた。また、友達の考えの良さに気付き、自分の学習に取り入れ学びを高めていく姿も多く見られた。

課題を解決するためのよりよい方法を自ら選択する力や、話の要点を明確にして話したり、要点を捉えて聞いたりする力に関しては今後も意識して伸ばしていく必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：学習意識は高く、全体的に「書く力」「知識・理解・技能」に関しては身に付いていると言える。それに対し、多くの学年で「読む力」に関して課題があると言える。
- 社会科：学習課題に沿って問題を見つけ、解決しようとする力がある。資料等を読み取る力である「観察・資料活用」の技能が身に付き始めていると言える。
- 算数科：学習意識は高く、「知識・技能」に関しては力が身に付いてきていると言える。それに対し「知識・技能」を活かして課題を解決する「思考力」や、考えたことを「表現する力」に関しては課題があると言える。
- 理科：学習意識が高く、そのため、基礎学力が身に付いていると言える。それに対し、生活に結び付けて理解したり、説明したりするなど、活用力に関しては課題があると言える。

4 令和3年度 目標と具体的方策

令和3年度 目標

学び合い ひびき合い 高め合う 中丸の子を 目指して
～ 子どもの姿を見取り、深める 学びづくり ～

(1) 学校組織としての共通の取組

- ☆ 子どもたちの学力向上に向けて ☆
- 1 基礎力を維持向上させる取組みを行う。
家庭との連携をはかる。「家庭学習ばっちり週間」
 - 2 子どもが意欲的に学習するよさを生かし、「できた」「わかった」という成就感、成功体験を実感できる授業を展開する。
 - 3 「伝え合う力」を育成するため、授業内で関わり合いの場面をつくる。
子どもの思いや願いが生まれる場の設定をする。
 - 4 誰にとっても分かりやすく、安心して学習できる環境をつくる。

- ☆ 授業力向上に向けて ☆
～教員の授業力向上や
相互に支え合う組織を目指して～
- 中規模校の特徴を生かした、全体で取り組む重点研究会、年次研修研究授業、指導法情報交換会
 - 小・中・高学年各ブロックの研究会、学年研究会
 - 若年層職員による企画で開かれる学習会・メンターチーム「中丸塾」

(2) 学年・教科等としての取組

各学年の実態に合わせたキーワードを軸とした学習活動の展開

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、主に教科書を使って継続して学習することで、着実に基礎学力をつける。
- 学習進度の似ている児童の小グループを設定し、一緒に学習する時間を設けることで、考えを伝え合う場面を増やす。
- 学習の流れを示したり、取り組みたくなる単元を設定したりすることで主体的に学習に取り組めるようにする。
- 栽培や他学年との交流をはじめとした体験的な学習における成功体験を積み重ねる中で、自己肯定感を高められるようにする。

1 学年

- 朝学習や家庭学習を活用し、基礎学力(読む、書く、計算等)を丁寧に反復指導し、定着を図る。
- 生活科を軸として、合科的・関連的指導を工夫するなど、自分なりの思いや願いをもって学習に臨み、友達や身近な人と関わり、人間関係が豊かに広がる学習環境を整える。
- 分かりやすい短い指示や、視覚支援の工夫を心がけることで、活動の見通しをもち、疑問や気付きを広げ、考えながら学習に取り組もうとする態度を育てる。

2 学年

- 基礎学力(読む、書く、計算等)を丁寧に反復指導し、定着を図るとともに、家庭と連携しながら普段の生活の中でも既習事項(時刻と時間・長さ等)の定着を図る。
- 関わり合いを生むような学習場面を設定し、自分の思いを伝えたり、相手の話をしっかり聞いたりする中で、互いに学び、高め合えるようにする。
- 身近な問題の解決に向かって、自分の思いや願いをもち追究する意欲や態度を育てる。

3 学年

- 基礎学力(読む、書く、計算等)を丁寧に反復指導し、定着を図るとともに、後期からは初歩的な自主学習を通して、自分で課題を見つけ、それを解決しようとする態度を育てる。
- 子ども同士の学び合いの場면을意図的に設定し、伝え、聴き合い、話合の中で言語活動をより充実させ、学びを深めることができるようにする。
- 体験的な活動を設定し、身の周りの事象に興味をもち、進んで調べたり、調べたことを表現したりする力を育てる。

4 学年

- 家庭学習を通して基礎・基本の定着を図るとともに、自主学習においては、明確なめあてをもち、自分に合った課題を選択して、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。
- 学習の中で、話し合いなどの言語活動を充実させ、共通点や相違点に着目しながら聞いたり、分かりやすい理由や事例を挙げながら話の中心が明確になるように伝えたりする力を育てる。
- 体験的な活動の機会を確保し、そこから得た学びを生活の中で関連づけ、活用する力を育てる。

5 学年

- 家庭学習を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、自分の課題を把握し、めあてをもちながら意図的・計画的に学習に取り組む態度を育てる。
- 授業の中では、相手意識をもち、伝え合う活動を充実させることにより、自分の考えを明確に話したり、相手の考えを受け入れたりする力を育てる。
- 体験的な活動や、身近な事象から課題を見出すとともに、課題解決に向けて、探究していく態度を育てる。

6 学年

- 家庭学習を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、目的意識をもって主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- 授業の中で自分の考えをもち、相手意識をもって伝え合う表現力を高めるとともに、相手の考えを受け入れつつ、さらに考えを深めようとする力を育てる。
- 教科間や、前学年のつながりを感じながら学ぶことで、広いものの見方や考え方ができる力を育てる。また、学んだことを日常にも生かそうとする態度を育む。